

令和6年9月17日



大型クラゲ情報(令和6年度第9号)

概要

- 県東部のまき網は大型クラゲの入網が大幅に減少し、県東部・西部の定置網でも減少傾向にあります。一方、小型底びき網では漁業被害が続いており、隠岐地区の定置網でも場所により100個体程度の入網が確認されています。
- 概して沖寄り、中層下層に分布していると考えられるので、特に底びき網は警戒が必要です。また、気象条件等により沿岸に流入する可能性もあるので、沿岸漁業も警戒を続けてください。

本県の出現状況(9月6日～12日)

- 県西部の小型底びき網では1網あたり10個～20個の入網が続いています。数が減ってきたとの報告もありますが、依然として操業遅延や漁獲量減などの被害が生じています。
- 県東部・西部の定置網は入網数が1～15個体程度となり、徐々に減少しています。隠岐地区も減少傾向にありますが、場所によっては100個体程度が入網することもあるようです。
- 県東部のまき網では1網あたり1.2個体程度の入網で、1日1経営体あたり300kg～1トン程度あった9月初旬と比べると大幅に減少しています。
- 9月10・11日に水産技術センターの試験船「島根丸」によって、隠岐北方の水深200m程度の海域で小型桁網(桁幅1.6m、高さ0.5m、曳網距離約1km)による漁礁効果調査が行われましたが、この際に1回あたり1.2個体程度の入網がありました。なお、多くは死んでおり破片状となっていました。

漁業情報サービスセンター(JAFIC)からの情報提供(9月12日現在)

- 島根県～宮城県までの全域で出現の情報があります。1000個に達するような大量出現にはなっていませんが、底びき網では一部まとまった入網が見られており、分布も中部～北部日本海が目立っています。
- 全国底曳網漁業連合会からの報告によると、山口沖から対馬海峡にかけて、底びき網で1網あたり10～40個体の入網があります(9月4日～6日)。
- 鳥取の小型底びき網で1網あたり40個体程度の入網が報告されています(9月7日～8日)。

※詳細は漁業情報サービスセンターHP (<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>)

※水産研究・教育機構による「大型クラゲのための漁具改良マニュアル」は、以下を参照ください

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/files/kurage4.pdf

【発信者】

島根県水産技術センター
海洋資源科 担当：石原
TEL: 0855-23-4806
FAX: 0855-23-2079
Email: suigi@pref.shimane.lg.jp